

# 富士の今と昔 ④

富士市には、源氏と平氏の富士川の合戦にまつわる史跡が幾つかあります。源太坂は、源氏の部将梶原源太景季と佐々木四郎高綱が、生月、磨墨の名馬をめぐって、争った所だといひ伝えられています。



昭和60年4月の源太坂

昭和20年代の源太坂 (写真提供 奈木盛雄氏)



佐野満ゆりさん(緑ヶ丘)は、「16号道路ができるときに、今の位置に源太坂の碑を移したんですよ」と話してくれました。

## ぼくの作品 わたしの作品



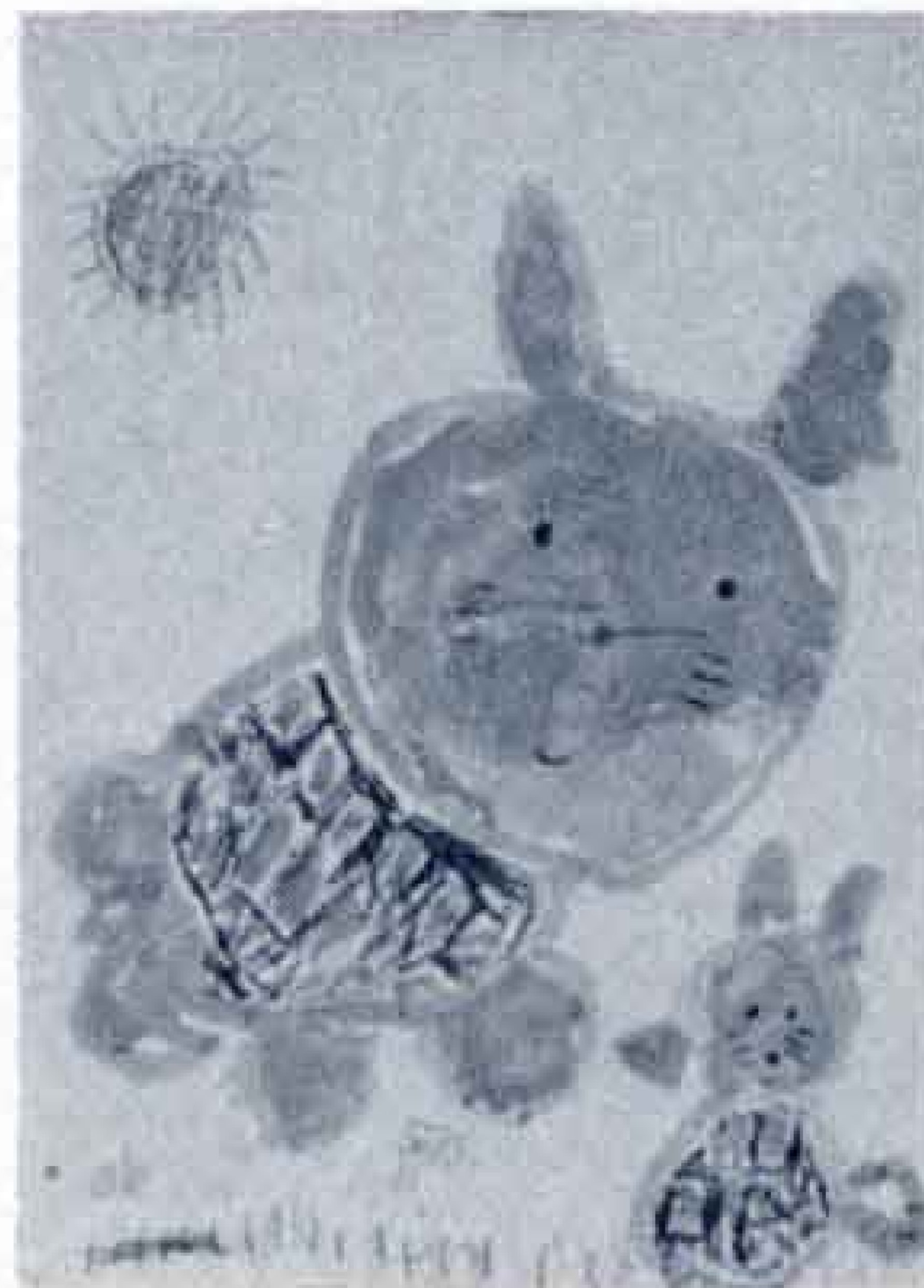
「おててのうえであそんだあおむしくん」と、「いぬのチャーくん」の絵を書いてくれた曙幼稚園のお友だちの作品を紹介します



かもよしみ



かわいかったあおむしが、かたーいかたーい、さなぎになって、朝きたらちょうちょになっていたよ。



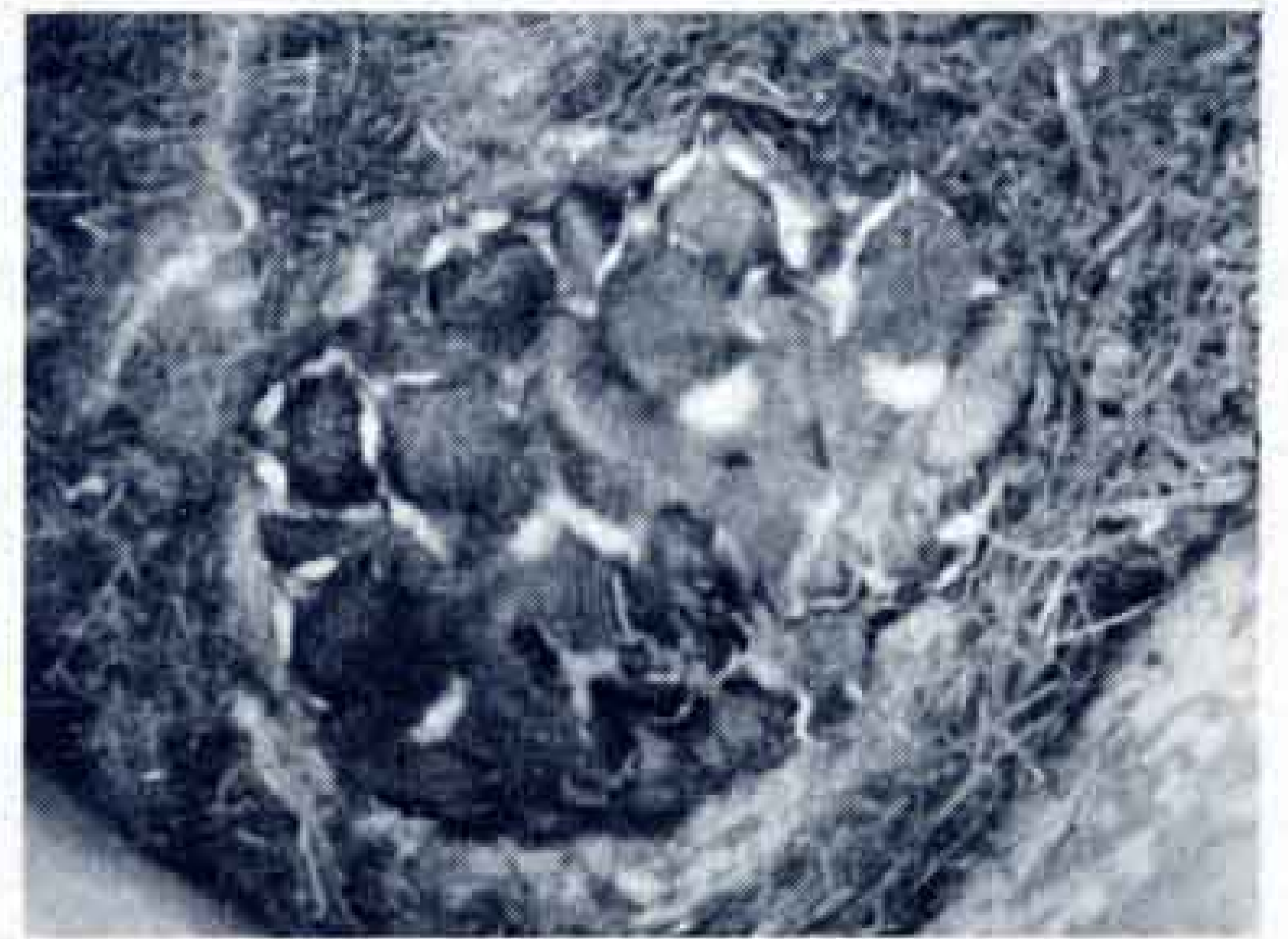
いとこうまゆこ



チャーくんは悪い人がくると、ワンワンほえてようちえんを守るんだよ。はなみずまで、なめちゃうんだよ。

# 自然の

橋田 権治さん



シジュウカラのひな

4月も終わりになる頃、桜吹雪が広場や池に舞う。5月、新緑の森をヤマツツジの朱色が彩り、アシタカツツジ、ドウダン、サラサドウダン、フジ、カマツカ、ヤブウツギ、ツリバナ、コバノガマズミ、ウツギズミが次々と咲き出す。雨上がりに見る富士は残雪を谷筋に残すだけとなる。シジュウカラが産卵を始め、クロツグミも黒木の高みに営巣を始める。オオルリ、コルリ、サンコウチョウのさえずりが森の奥から聞こえ、渡りの途中らしいノゴマの姿も見受けられる。イカルは「リベート欲しい」と、どこかの国の政治家みたいに鳴き、センダイムシクイは「焼酎一杯グイ」と鳴く。カッコウ、ホトトギスもさえずり始める。

下旬になると水辺の木の枝にモリアオガエルがクリーム色の丸い卵塊を幾つもぶら下げる。シジュウカラの巣をのぞくと、10羽ばかりのひなが一斉に黄色いクチバシを上に向け、パイパイとエサをねだる。

森はまた深い霧に包まれ、アカハラのドラミングやキジバトの声が淋しげに聞こえて来る。